

ピオルコフスキーさんが作った海中郵便ポスト(右)は、鈴木さん(左)がマネージャーを務めるノアすさみでも引き継がれている。



(株)ノアすさみ  
Tel: 0739-55-4511  
すさみ町周参見4857-74  
www12.ocn.ne.jp/~noah-s/  
MAP・P23 ㊦

## 世界最深「海中ポスト」は、 海を守るダイバーと漁協のシンボル

西牟婁郡すさみ町  
株式会社ノアすさみ

紀南のすさみ町に、世界一深い海底約一〇メートルに設置された郵便ポストがある。

一九九九年の「南紀熊野体験博」の際に、すさみ町マリンスポーツフェスティバル実行委員会が発案し、地元在住のドイツ人アーティストのピオルコフスキーさんが、廃棄ポストを活用して海中で郵便物を取り出しやすいように頂部を開閉式に改造。専用耐水ハガキもできた。これが大好評で会期後も存続され、現在までに投函ハガキは三万通を超えている。二〇〇二年にはギネスブックにも登録された。

海中郵便ポストのハガキの販売・回収などの管理は、ダイビングサービス会社「ノアすさみ」が引き受けている。「ノアすさみは九六年に設立されました。五一%をすさみ漁協が出資し、残りを組員や民宿などが持っています」と語るのは、マネージャーの鈴木和之さん。

大資本主導のマリンレジャー開発に疑問を持った松田猛司社長が、奥さんの地元すさみ町に働きかけてノアすさみが生まれた。水中写真家としても知られる松田氏は、ダイバー仲間や海洋生物研究者を呼んで、ダイビングサービスや町立水族館などを立ち上げた。鈴木さんもその一人で、神奈川県から移住してクラブの責任者をしている。

「黒潮が流れる美しいすさみの海にひかれました。ダイバーと地元漁協は対立することが多いのですが、すさみではお互いが協力して海を守り、地域の活性化につながる事業をめざしています」

〇八年四月には、鈴木さんたちスタッフが、カキや海藻がびっしり付着した古いポストを回収し、新しいポストを設置し直した。

一二年におよぶノアすさみの活動は全国から注目され、小笠原母島や島根県隠岐、徳島県牟婁、山口県見島で「ノアすさみ方式」の地域活性化事業がスタートしている。

海中郵便ポスト製作者のピオルコフスキーさんも、「海は世界の人のつながっています。私は健康を害して潜れなくなりましたが、ノアの若い人たちがきちんと管理してくれるのがうれしいですね」と語っている。



ピオルコフスキーさんの夢は、ノアすさみと地元漁協によって見事につながっている。



海中郵便ポストを管理するノアすさみのスタッフ。真ん中に営業部長の肩書きをもつマスコット、キース君。左奥の海面下約10メートルにポストがあり、投函があるとスタッフが取りに行く。「実は、我々はダイビングショップなので、その日のダイバーが投函したかどうか確実に分かるんです(笑)」